

女性リーダー 育む環境必要

学園大でシンポ

「グローバル共生社会 女性リーダーを育む環境を考える」と題したシンポジウムが26日、熊本市中央区の熊本学園大であり、ドイツ研究振興協会日本代表部のミラ・パウアサ

ックス代表補佐が「女性リーダーの活躍」と題して講演した。

熊本大主催。大学コ

ンソーシウム熊本が共催。約80人が聴いた。

パウアサックスさん

は「大学生の男女の割合は均衡しているが、

研究者としてキャリアを積むほど男性の割合

が高く、女性が低くな

る」と指摘。教授に占める女性の割合は、日本で14%、ドイツは20%にとどまるとい

う。さらに「潜在的なイノベーション（改革）



「女性リーダーの活躍」と題して講演するミラ・パウアサックスさん＝熊本市中央区

力を引き出すには、女性研究者が不可欠。研究機関は政策や雇用条件などで、女性のキャリアを支援していく必要がある」と話した。パネルディスカッションもあり、大学、行政、企業の立場から、女性の管理職を増やすための課題を話し合った。（森本修代）